



同社・松田社長



調査ツールの一部

リアルイノベーター  
大化けする変革企業

検NET株式会社  
松田隆模社長

リアルイノベーター

大化けする変革企業

# インスペクティブ事業で既存住宅流通に

「駅に近い」、住環境の良さ、など好立地を中心に根強い人気を集める中古住宅(以下「既存住宅」)。そんな既存住宅の取引について、我々消費者にも深い関係を持つ法改正があったのを「ご存じだろうか?」

今年四月に、改正宅建業法が施工され、インスペクティブ(建物状況調査)説明の義務化がスタートし、住宅の売買にかかわる売主・買主は、このインスペクティブの実施の有無などを知る機会が生じるようになった。

建物状況調査に関し、独自ノウハウで成長を続け、業界でも注目される「検NET株式会社」の松

田社長に今後の事業展開などについて話を聞いた。

「多くのメディアで紹介されるなど、注目を集めた御社の『雨漏り調査事業』と共に、法改正によるインスペクティブ関連事業についても、受注が増え、お忙しいようです。改正法施行から、数か月が経過しましたが、足下の状況などをお聞かせください。」

松田 おかげさまで、インスペクティブ関連事業については、多くのお問い合わせを頂いております。一方で、検査を担当する人員の確保や、従来からの各種調査事業の展開で蓄積してきた確

かな調査精度と、スピード感ある調査で、今後さらに増える案件に對しても、より積極的に望める会社としての体制を当社は擁していると自負しています。改正法施行から数か月が経過しましたが、当社が予想していた通り、東京、大阪、名古屋など、大都市圏では、調査案件がかなり増えており、その他の地域でも、全国一律というわけではありませんが、次第に案件が増えていくものと考えています。

「法改正によるインスペクティブ説明の義務化がスタートしたことで、我々消費者は、より安全・安心の既存住宅取引に臨めるよう

になります。法改正によって、既存住宅にかかわるリスクが見えやすくなったことで、売買など市場の環境にも変化が出てくるお考えでしょうか?」

松田 改正法施行から、まだ日が浅い現状では、大きな変化はありませんが、変化の兆しのようなものは、私自身感じる機会が増えましたね。大手の宅建業者さんなどは、法改正の前から、独自基準で、建物状況調査を行い、当社もそのサポートをお引き受けすることもありました。中古自動車をはじめとする他の中古品取引では、今や品質保証は当たり前前の時代です。不動産においても、品質

保証がないわけではありませんが、不明瞭な点を不安に思われる消費者の皆さんが一定数おられる。安心・安全、そして納得感を得られる既存住宅取引を期待される皆さんの数が、今後増えていくものと期待しております。そうした中で、検NETの建物状況調査「なら安心だ、と言っていただけになることが、当社目標の一つです。」

「改正法施行後は、インスペクティブ関連事業もお忙しいとのことですが、御社のもう一つの看板事業である『雨漏り調査事業』について、引き続き堅調な成長が続いていますね。」  
松田 ありがとうございます。インスペクティブと同様、独自ノウハウとスピードな仕事で、お客さまからの評価を頂き、これまでにインスペクティブ事業といわば二本柱で、良い仕事を皆さんにご提供して参ります。今後の事業活動は、全国的な展開をより確かなものにしていくよう、さらにお客さまから評価を頂ける、品質とスピードを兼ね備えたものとしていけるよう努力を続けていきます。ご期待ください。

## この会社

### 検NET ここがすごい! 記者の見た「成長の芽」

「住宅を売り買いする際の、品質についての情報開示の手段の一つとして、その認知度向上が期待されるインスペクティブ(建物状況調査)。」

今年四月から改正宅建業法の施行により、インスペクティブで得られた建物のクオリティ情報を、売主・買主間で共有でき、より安心・安全な不動産取引が実現されると期待されている。「契約ゴト」に関連して、より詳細な情報開示を求める動きは、不動産取引に限らず、社会的要請は日々強まっている。その大前提となるのは、情報の正確さだ。

特に、高額となる不動産取引の場合、売主・買主間で、ミスマッチが生じることが、トラブル化する余地が小さくないだけ

に、インスペクティブの担い手となる「検NET」のような調査会社の「確かな調査実績」への期待値は今後さらに向上していくことになるだろう。

調査会社としてのこの「確かな調査実績」、そして経験の豊富さという点については、改正法施行以前から、調査サービスを手掛け、大手宅建業者など多くの顧客から絶大な信頼を得ている「検NET」のそれは、追隨を許さないピカイチのもの。「検NET」のインスペクティブなら安心」と同社の調査サービスがブランド化していく日もそう遠い未来のことではないと考える。

リーディングカンパニーとしてのさらなる成長にエールを送りたい。